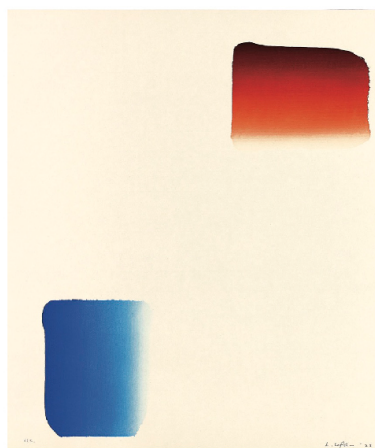


画像転載不可



YAYOI KUSAMA TADANORI YOKOO KEIICHI TANAAMI IZUMI KATO
CHIHARU SHIOTA KOHEI NAWA AYAKO ROKKAKU YUSUKE HANAI
LEE UFAN ANTONY GORMLEY KIKI SMITH
N.S.HARSHA NICK WALKER ALEX DODGE JAMES JEAN



ARTISTS RE-WORKING THE TRADITIONS OF WOODCUT PRINTS

浮世絵現代

国内外のアーティストが伝統の木版画に挑戦

UKIYO-E IN PLAY

2025.4.22 ^{TUE} [火] - 6.15 ^{SUN} [日]

開館時間 午前9時30分～午後5時
※毎週休館日 土曜日、5月4日（祝）、5月11日（祝）は休館日です。
※入館は閉館の30分前まで



東京国立博物館 表慶館
TOKYO NATIONAL MUSEUM (上野公園) (UENO PARK)

主催：東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション 共催：公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団 企画協力：エヌ・アンド・エー株式会社

上段 草間彌生《生命は限りもなく、宇宙に燃え上がって行く時》「七色の富士」より 2014 年 木版 ©YAYOI KUSAMA / 下段左から ロッククアヤコ《無題1》2020 年 木版 ©AYAKO ROKKAKU / 塩田千春
《Connected to the Universe - Red Circles》2023 年 木版 ©JASPAR, Tokyo, 2025 and Chiharu Shiota / 李禹煥《Dialogue 1》2022 年 木版 ©2022 Lee Ufan / 加藤泉《無題3》2023 年 木版 ©2023 Izumi Kato

RELEASE

浮世絵現代

国内外のアーティストが伝統の木版画に挑戦

日本の木版画の技術は、江戸時代の文化の中で独自に発展し、浮世絵という力強く華やかな芸術を生み出しました。「浮世」という言葉には「当世風の」という意味があり、浮世絵版画はまさにその時代と社会を色鮮やかに映し出すメディアでした。

写楽や歌麿、北斎の浮世絵を生み出したこの高度な木版画の技術は、途切れることなく、現代まで職人たちに受け継がれています。山桜の版木を使い、和紙に墨と水性の絵具で摺り上げることで生まれるシャープな線や軽やかな色彩は、唯一無二のものです。伝統の技術は、同時代の人々の心をとらえる作品を生み出し続けることで、さらに次代へと継承されていきます。

この展覧会は、伝統木版画の表現に魅了された様々なジャンルのアーティスト、デザイナー、クリエイターたちが、現代の絵師となり、アダチ版画研究所の彫師・摺師たちと協働して制作した「現代」の「浮世絵」をご覧ください。

総勢85名のアーティストたちの木版画を通じて、現代から未来につづく伝統の可能性をご鑑賞ください。

第1章 漫画往還

浮世絵と漫画の出版の構造的な類似、表現上の親和性を踏まえて、漫画家たちが挑んだ「現代の浮世絵」を紹介します。江戸時代と同じように、漫画家、彫師、摺師の分業によって制作した木版画です。江戸の浮世絵師たちへの深い敬意と、遊び心を感じる作品が揃いました。おなじみのキャラクターたちが、皆様を伝統木版画の世界へご案内します。

主な参加アーティスト	水木しげる 楳図かずお 安野モヨコ 石ノ森章太郎 ほか
------------	-----------------------------

歌川広重の代表作「東海道五拾三次」を下敷きに、漫画家・水木しげるは様々な妖怪たちが登場する「妖怪道」を描いた。



水木しげる
《妖怪道五十三次 京都》2003年
©水木プロダクション

美人大首絵は、絵師の技量が問われる一方、和紙のやわらかさや墨の力強さといった木版の素材の魅力を、女性の肌や黒髪で最大限に活用できる。



安野モヨコ
《『さくらん』 きよ葉》2016年
©Moyoco Anno

第2章 北斎賛歌

米国『ライフ』誌の特集「この1000年の間に偉大な業績をあげた世界の人物100人」(1998年)において、日本人で唯一選ばれた浮世絵師・葛飾北斎。木版画の魅力を最大限に引き出す北斎の優れたデザイン感覚に触発されたのが、当時第一線で活躍していた日本のデザイナーたちでした。2章では、木版画の素材・技法の特性を理解し、北斎のデザインの現役性を引き出すことに成功した4名のデザイナーの作品を紹介します。

主な参加アーティスト	栗津潔 浅葉克己 佐藤晃一 松永真
------------	-------------------



戦後日本のグラフィックデザインを牽引した栗津潔は、伝統的な木版による印刷の技術にも高い関心を寄せ、多くの木版画作品を制作している。

栗津潔
《うんすいに鶴》
(「北斎模様・潔彩色図譜」より)1987年

第3章 模索と実験

戦後、高度経済成長期を経て、彫師・摺師の数はどんどん減少し、伝統的な木版の技術の真価が問われる局面を迎え、「現代の絵師」探しが始まりました。3章では、1970年～2000年代にかけて、伝統木版画の彫師・摺師たちと新たな浮世絵を制作することを試みた絵師の作品群を紹介します。

主な参加アーティスト	田中一光 黒川紀章 薮嘔 和田誠 フンデルトヴァッサー ほか
------------	--------------------------------



光のスペクトルを用いた作品で、薮嘔^{あいおう}は今日「虹の芸術家」として広く知られている。

あいおう
薮嘔
《富嶽噴火 凱風虹快晴》
1982年

第4章 現代の絵師たち

浮世絵の「浮世」という言葉は現世を表す「憂き世」を語源とし、「当世風の」という形容詞的な用いられ方をしてきました。この本来の意味に立ち返った時、「現代の浮世絵」を描く絵師は、今という時代を見つめ、多くの人々の心を揺さぶる現代のアーティストだといえるのではないのでしょうか。4章では、2010年代以降、世界中のアーティストたちが日本の彫師・摺師とともに制作した「現代の浮世絵」を紹介します。

主な参加アーティスト

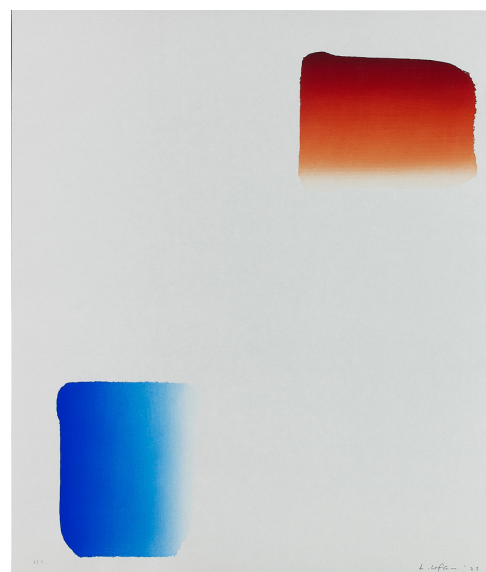
草間彌生 横尾忠則 田名網敬一 加藤泉 塩田千春 名和晃平 ロッククアヤコ 花井祐介
李禹煥 アントニー・ゴームリー キキ・スミス N・S・ハルシャ ニック・ウォーカー
ジェームス・ジーン アレックス・ダッジ KYNE ほか



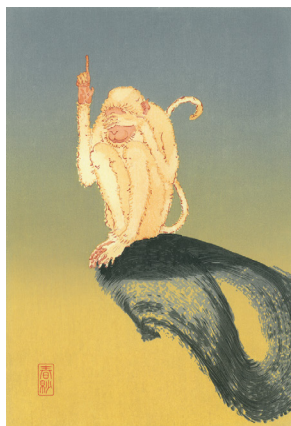
ロッククアヤコ
《無題1》2020年
©AYAKO ROKKAKU



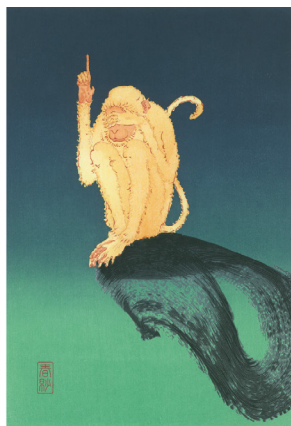
加藤泉
《無題3》2023年
©2023 Izumi Kato



リ・ウファン
李禹煥
《Dialogue 1》2022年
©2022 Lee Ufan



N・S・ハルシャ
《恥ずかしがりの猿 黄昏・鶏鳴・日出》2017年
©N.S.Harsha



アレックス・ダッジ
《Dancing Between the Shadows of Power》2021年
©Courtesy the artist and Maki Fine Arts, Tokyo



塩田千春《Connected to the Universe》2023年
©JASPAR, Tokyo, 2025 and Chiharu Shiota



KYNE《無題1》2024年 ©KYNE



ジェームス・ジーン
《Chrysanthemum》2021年
©James Jean

第5章 継承と発展

現在、伝統木版画の技術を継承する彫師・摺師は、日本に50名程です。現役の職人に限れば、さらにその数は少なくなります。また木版画の素材の生産者や道具をつくる職人も少なくなっており、業界の規模は年々縮小しています。

こうした状況の下、浮世絵を生んだ伝統木版画の技術を次代へ継ぐことを目的として、1994年にアダチ伝統木版画技術保存財団が設立されました。主たる事業は技術者の育成であり、財団の研修制度を経て、現在数名の彫師・摺師が活躍しています。5章では、アダチ伝統木版画技術保存財団の30年の活動の一端として、同財団が企画・監修した木版画作品を紹介します。

主な参加アーティスト	福田美蘭 近藤聡乃 宮崎優 ピーター・マクドナルド ほか
------------	------------------------------



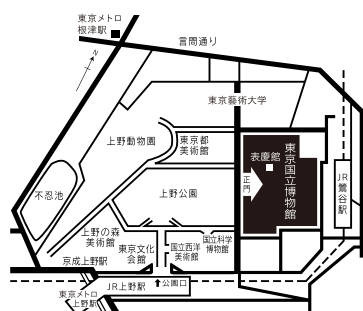
こちらの2作品は、
アダチ伝統木版画技術保存財団が主催する
公募企画「アダチUKIYO E大賞」受賞作。

【左】宮崎優《花ざかり》2018年 ©Yu-Miyazaki

【右】福田美蘭《2012年の雪月花》2012年

開催概要

展覧会名	「浮世絵現代」
英語展覧会名	Ukiyo-e In Play
会 期	2025年4月22日(火)～ 6月15日(日)
休 館 日	月曜日、5月7日(水) *ただし、4月28日(月)、5月5日(月・祝)は開館
開 館 時 間	午前9時30分～午後5時 *毎週金曜・土曜日、5月4日(日・祝)、5日(月・祝)は午後8時まで開館 *入館は閉館の30分前まで
会 場	東京国立博物館 表慶館
主 催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション
共 催	公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団
企画協力	エヌ・アンド・エー株式会社
観 覧 料	一般1,400円(1,300円)、大学生700円(600円)、70歳以上400円(300円) *特別展「葛屋重三郎」(平成館 特別展示室 4月22日(火)～6月15日(日)) または「イマーシブシアター 新ジャポニズム」(本館特別5室 3月25日(火)～8月3日(日)) の観覧券をお持ちの方は、本展会期中の観覧日当日に限り本展を無料でご覧いただけます。 *()内は前売料金 *高校生以下、障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。 *前売券は2月13日(木)～4月21日(月)までの間、東京国立博物館正門チケット売場(窓口、開館日のみ、閉館の30分前まで)、各種プレイガイドにて販売します。
お 問 合 せ	050-5541-8600(ハローダイヤル)
展覧会公式サイト	https://tohaku-edo2025.jp/
展覧会 X	@tohaku_edo2025
展覧会Instagram	@ukiyoeinplay



報道関係
お問い合わせ

「東博が江戸2025」広報事務局(共同PR内) 担当:三井
E-mail: tohaku-edo2025-pr@kyodo-pr.co.jp
TEL: 03-6264-2382

TNM 東京国立博物館 表慶館
TOKYO NATIONAL MUSEUM (上野公園)
(UENO PARK)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

JR上野駅公園口 鶯谷駅南口より徒歩10分 東京メトロ銀座線・日比谷線
上野駅、東京メトロ千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

ひとりを思う、みんなのメディアへ。
放送! 100年

アダチ伝統木版画技術保存財団とは

アダチ伝統木版画技術保存財団は、伝統木版画の制作技術に関する研究などの奨励と保存、ならびに技術者の育成に努め、あわせてその成果を広く一般に普及することで、日本の美術文化の発展に寄与することを目的として、平成6(1994)年に文部科学省認可、文化庁文化財保護部所管の財団として設立しました。平成25(2013)年4月には内閣府所管の公益財団法人へ移行。

<現代の浮世絵・国際創造プロジェクト>

本展第4章(2階展示室)の展示作品は、主にアダチ伝統木版画技術保存財団の「現代の浮世絵・国際創造プロジェクト」によって制作された木版画です。同プロジェクトは、世界で活躍するアーティストの方々に伝統木版画技術を使った新しい芸術表現に挑戦していただき、伝統木版画技術のもつ唯一無二の魅力と現代における可能性を、展覧会等を通じて広く世界に伝えることを目的としています。